

【総括判断】

項目	25年7-9月期	25年10-12月期	前回との比較
総括判断	回復している	回復している	➡

足下の動き

好調な旅行需要などを背景に、企業から引き続き景況感について明るい声が聞かれているなど、回復基調が続いている。

先行き

沖縄振興策などを背景として景気が回復しているなかで、海外景気の下振れリスクや原材料価格の動向などについて、引き続き注視していく必要がある。また、消費税率引上げに伴う駆け込み需要及びその反動が見込まれる。

【各項目の判断】

項目	25年7-9月期	25年10-12月期	前回との比較
個人消費	緩やかに回復している	緩やかに回復している	➡
観光	回復している	回復している	➡
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	➡
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	➡
設備投資	前年度を下回る見通し	前年度を下回る見込み	➡
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	➡
生産活動	緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動きがみられる	緩やかな持ち直しに足踏みがみられる	⬇
企業収益	減益見通し	増益見込み	⬆
企業の景況感	現状判断は「上昇」超幅が拡大している	現状判断は「上昇」超幅が縮小している	➡

【主要項目の動向】

個人消費

[緩やかに回復している]

大型小売店販売額は、食料品が好調であるほか、気温の低下とともに秋冬物衣料品に動きがみられ、新規出店効果もあって前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売額は、新規出店効果や挽きたてコーヒー販売の展開による来店客数の増加に加え、ファストフードが好調であることなどから前年を上回っている。

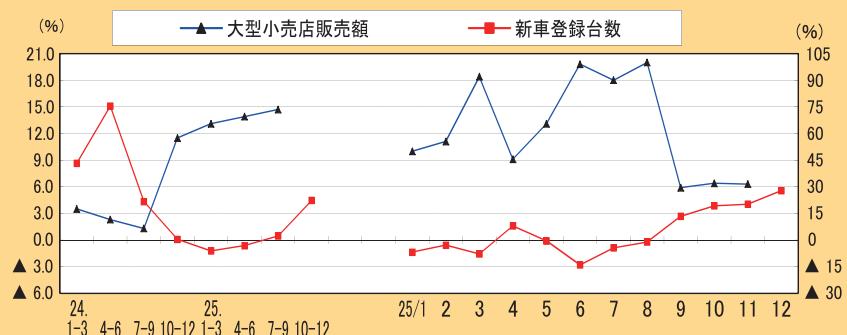
新車販売台数は、新型車効果のほか、消費税率引上げに伴う駆け込み需要もみられ前年を上回っている。

中古車販売台数は、販売促進効果から前年を上回っている。

家電販売額は、住宅建設の増加等を背景としてエアコンや冷蔵庫などの白物家電が好調であるほか、薄型テレビが増加傾向にあることから前年を上回っている。

このように、個人消費は緩やかに回復している。

○大型小売店販売額、新車登録台数（前年比）



観光

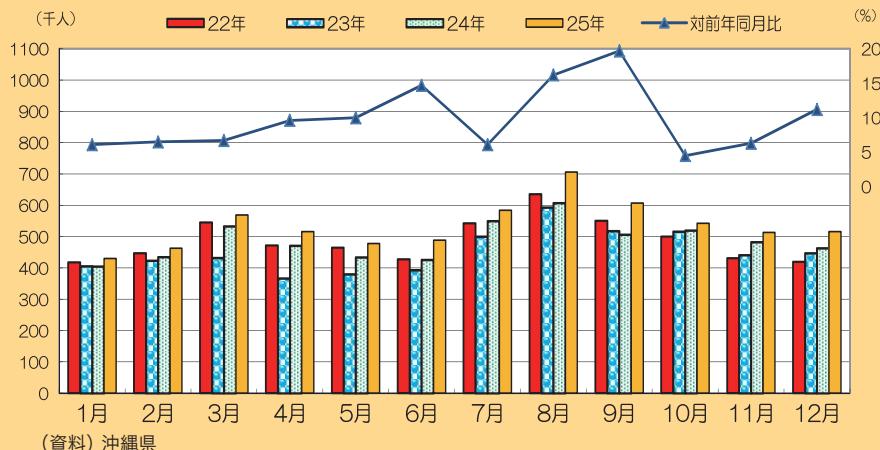
[回復している]

入域観光客数は、台風の影響がみられたものの、国内客がLCC等の就航効果などから増加し、外国客が航空路線の拡充などにより増加したことから、15ヶ月連続で前年を上回っている。

ホテルの客室稼働率は引き続き前年を上回っており、客室単価は、都市型ホテルで引き続き低下傾向にあるものの、旅行需要が高まった年末年始の価格設定などから、前年を上回っている。

このように、観光は回復している。

○入域観光客数



雇用情勢

[持ち直している]

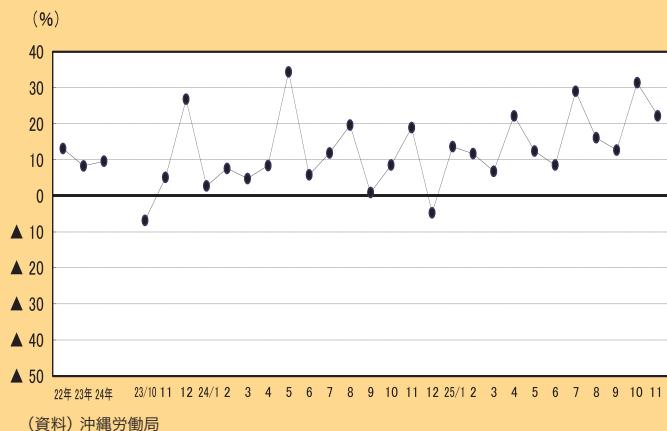
新規求人数は、宿泊業・飲食サービス業、医療業・福祉業など多くの業種で前年を上回っており、新規求職者数は前年を下回っていることなどから、有効求人倍率（季節調整値）は引き続き上昇している。

このように、雇用情勢は持ち直している。

○有効求人倍率及び完全失業率



○新規求人数 (前年比)



【その他の項目の動向】

住宅建設

新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲ともに前年を上回っており、全体でも前年を上回っている。

設備投資

法人企業景気予測調査（25年10～12月期）でみると、全産業では前年度を18.0%下回る見込み（除く、石油・石炭、電気・ガス・水道では8.9%下回る見込み）となっている。

公共事業

公共工事前払金保証請負額（25年4～12月累計）は、前年を上回っている。

生産活動

食料品は、食肉加工品、酒類の一部が前年を上回っており、全体では前年並みとなっている。窯業・土石では、好調な公共・民間工事を背景として生コンやセメントの出荷が前年を上回っているほか、金属製品も前年を上回っている。石油製品は引き続き前年を下回っている。

このように、生産活動は緩やかな持ち直しに足踏みがみられる。

企業収益

法人企業景気予測調査（25年10～12月期）でみると、25年度下期は、全産業で11.9%の減益見込みとなっている。25年度通期は、全産業で0.4%の増益見込みとなっている。

企業の景況感

法人企業景気予測調査（25年10～12月期）でみると、製造業では、「上昇」とする企業が減少していることから「上昇」超幅が縮小している。非製造業では、サービス、建設で「上昇」とする企業が減少していることなどから「上昇」超幅が縮小している。

この結果、全産業では、「上昇」超幅が縮小している。